

第4回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和6年7月23日(火) PM7:00～9:30

場 所 新城市役所4階会議室

出席者 委員25名 事務局4名

次第

- 1 会長あいさつ
 - 2 報告
 - (1) 令和6年度地域自治区予算事業の進捗状況について
 - 3 協議
 - (1) 令和7年度地域自治区予算事業の検討について
-

1 会長あいさつ

2 報告

- (1) 令和6年度地域自治区予算事業の進捗状況について
 - ・当該全ての事業について説明した。

3 協議

協議会の会議録署名

- ・定数29人のところ25人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を2名指名し署名をお願いした。

(1) 令和7年度地域自治区予算事業の検討について

(事務局説明)

- ・前回の地域協議会での意見に対しての市担当課または実行団体の取り組みや意向を整理するとともに、地域自治区予算の実行団体による活動報告などを行った。

○主な意見

委員 屋外消火器設置の提案をしたい。家の前に設置し、設置箇所の方が留守の際に、出火や漏電による失火等の何か不審火が起きた、あるいは隣から火が延焼した、そのような場合に屋外に消火器を置いておくと、それを使って、隣の人や通りがかった人が初期消火できる。屋外に置くと、格納庫があるので、普通の消火器より少し割高になるが、留守の家庭や高齢者一人世帯でも、隣の人がお手伝い出来るので、非常に便利だと思う。東郷17行政区の皆さんに賛成していただき、各区で消火器を購入したらどうか。ぜひ検討いただきたい。

事務局 地域自治区予算との絡みであるが、防災対策課で防災資機材に関する補助制度が現行制度としてある。全体の内、50%は市で負担し、50%は地域で負担するということになっている。この50%の地域負担の内の半分である、25%を地域自治区予

算として上乗せ補助するために、その予算を来年度地域自治区予算事業として市長に建議することも出来る。ただ、ひとつの行政区だけでは出来ないの、地域協議会の方で消火器設置の補助事業を採用するのであれば、事務局で全17行政区の要望を取りまとめ、次回の地域協議会で、集計結果と予算額を報告させていただくという流れとなる。また、その上で検討していただきたいこととして、2点ある。1点目として、今年起こった能登半島ではトイレが足りなかったの、簡易トイレを各区に配備しても良いのではないかと意見が前回の会議であったので、提案のあった消火器だけでいいのか、もしくはトイレも含めるのか、また他の防災資機材はどうするのか、どのような要望を区長に取るかも考えていただきたい。もう1点は、防災資機材整備は過去4年間地域協議会で対応してきた。地域計画を見ていただくと、各区にどれだけのものが整備されてきたかが分かる一覧表がある。一応4年間で区切りをつけたという経緯もある中で、改めて消火器やトイレも含め、再度計画をたてるのか、ということも守ろうのグループで検討していただき、最後その検討結果を全体で発言していただき、地域協議会としての方向性を決議していただきたい。

委員 消火器だが、現在防災対策課で50%補助金をいただいている。ただ、一度つければ終わりではないので、今後更新をしていかなければならない。今言われた25%の補助金はこれまでもらってなかった。例えば、これまでもそうだが、今後更新する際にも、25%の上乗せ補助金をもらえるのか。

事務局 そもそも地域協議会で今回のように話が出て、区長に集計を取り、地域自治区予算として計上しておくとお上乗せ補助がもらえることになる。防災資機材は過去4年間かけて、区長の要望のもとで各自主防災会に配備されてきたが、その中に消火器は該当無かったため、地域自治区予算で上乗せ補助はやってこなかった。ただ、来年度に消火器を要望される場合には、地域協議会で決議を取り、上乗せ補助をする方針が決まれば、来年度分の予算を取ることが可能となる。

委員 過去には投光器など結構高価な資機材を配備されたと思うが、コロナですべて使っていないでバッテリーが故障し2万円くらい修理費がかかった。ほとんどの区が使えない状態で、更新に関しては補助がないので区費で出した。そのような状況があるのは、市としては把握していないと思うがいかがか。

事務局 防災資機材に関する制度は2種類あり、先ほど言ったのは50%の市の補助金に地域自治区予算で25%上乗せする、計75%補助制度。もう一つは、区の自己負担無しで資機材を貸与する事業。投光器は、貸与事業で整備したもの。地域協議会として4年間の計画として、資機材を貸与してきたので、概ね資機材は整備されたという認識。5年間貸与しその後は無償譲渡するという流れになっており、基本的には区の方で更新をしていただくのが原則となるので了承いただきたい。

委員 半分分かるが、小さな区では予算がいっぱいいっぱいの状態であるので、維持管理は区でやるとなると、予算的に大変困ることがあるということだけは理解していただきたい。

委員 富永区民から要望があり、防犯カメラを設置していただきたい。こちらも地域自治区予算で上乗せ補助があればお願いしたい。また、取りつける場所は、公民館や住民の家の前でもいいのか、映すのは交差点は良いのか、などの詳細を教えていた

だきたい。

事務局 防犯カメラは基本的には行政課本体で80%の補助制度があり、残り20%が区の負担となるが、その内の半分である10%を地域自治区予算で上乗せ補助するという制度がある。地域協議会でやるという方針が決まれば、各行政区に要望を取って、数量を把握し、事務局で予算積算していく。全体の予算額が許せば、地域自治区予算として計上していくための建議を行うという流れになる。設置に関しては、主に道路を中心に映すことが原則となる。あとは、設置箇所の地権者や撮影区域内に入る住民の同意を得ないといけないなどのルールがあるので、後でグループの方に共有したい。また、地域計画に防犯カメラの設置も記載されていたので、守ろうのグループで方針を出して、最後に発表して全体として決議を取っていただきたい。

委員 東郷学び学校は、11月23日に実施するということが、予算は夏と冬の計2回となっているが、今年度2回実施予定か。

事務局 共育コーディネーターを中心に一緒に企画しているが、11月に開催をして、例えば、5月など年度明けに開催という話もあった。ただ、地域自治区予算としては、年度を越えて開催が出来ないので、その辺も含め検討していかないといけない。昨年度は3月に開催したので、同様の時期に開催することも考えているが、今年は11月に新たな取り組みということで西地区の公民館を中心に開催し、次回は東地区でやっていきたいという構想はあるが、年度内にもう1回開催出来るかは、改めて協議させていただいて、もしかしたら1回で終わってしまうかもしれないが、そのような形で今検討を進めている。

その後、地域計画の5つの柱ごとにグループにわかれ、令和7年度地域自治区予算事業計画の検討を行った。グループ討議終了後、各柱のリーダーから議論内容の発表があった。以下発表要旨。

柱1 暮らそう

- まず1点目にお手伝いチケットの制度を東郷地区でどうしていくかを話し合った。新城地域自治区の現状を聞いたが、7~8年ほど継続していて、民生委員が中心になり運営している中で、サポートメンバーを探すのが大変だという現状があったり、利用が伸び悩んでいたりなど、色々な問題があるとのこと。住民同士の協力があったり、市のサポート体制も続けてきたというところで、東郷で独自の良いものがどうやって出来るかは、まだまだこれから検討しないといけないとメンバーで話し合った。その中で、本当に具体的なところを詰めていくために、他の協議会メンバーにもっと声を聞いたり、民生委員や区長にも、需要が本当にあるのか、より具体的なアンケートを聞いてみるのもいいのではないか。あと、ゴミ出しに関し、自宅の前に出してもいいのではないか、また、他の豊川のボランティアでは、マッチングサービスのような形を作って成り立っているということも聞いたので、私たちが検討していけたらいいと思っているが、時間が足りないのが現状なので、この事業計画については、すぐ予算化するというよりは、今後引き継いでいきたい。
- 2点目だが、公民館を活用し、気兼ねなく集まれるような活動をしていく団体がもっと地域に周知されて公民館活動が活発になっていくという目的で、もっと発信していけるように東郷版の団体紹介冊子を作っていくことに重きを置いて提案していきたい。特に、若い人たちは、

ホームページを活用していけるかもしれないが、やはり一番のターゲットとしているのは高齢者なので、紙媒体の方がしっかりと周知が出来、より活動に生きてくると思うので、紙媒体での冊子づくりや配布に予算をかけ、回覧版や各戸配布により、しっかりと手元に届く形として予算化していきたい。

柱2 守ろう

- 1点目に、消火器を格納庫も含め、屋外設置するということは本当に良い案だと思う。それに対し、守ろうとしては、地域協議会の予算として上乘せ補助出来たら良いと思う。また、防犯カメラについては、ランニングコストが年に3万円ほどかかるようだが、こちらは地域協議会で出すわけにいかないなので、各行政区で出していただく。判断は各行政区に任せることになると思うが、地域協議会としては、上乘せ補助をする方向で採択していただきたい。
- 2点目の子どもの安全な通学である、通学時のヘルメット着用に関しては、昨年度既に学校関係から、学校としては採用できないという結論が出ているということで、地域協議会として、あえて予算化して進めないことにしたい。ただ、やはり子どもたちの通学のときに、危険だという箇所は幾つもあると思う。もちろん、グリーンベルトを再度舗装し直すなど、高額なものになるのは出来ないが、各地区から危険箇所についてはあげていただき、来年度予算化は無理かもしれないが、その次に反映できるようにしていきたい。
- 3点目にAEDリースの件だが、来年度にリースアップするところがあり、それに関してはリースの継続をお願いしたい。やはり人の命を守るものとして、AEDを減らすわけにはいかない。東郷地区に今23くらいのAEDがあるが、そのうちの約12個が一般企業や法人で所有している。行政区にAEDを増やしていくのが一番良いことではあるけれども、それよりも企業や法人との提携を強化し、住民としても各企業のAEDを利用させていただけるような形に持っていきたい。それを市として協力体制を構築していく動きを示していただけたらありがたい。また、AEDがあっても使えないというのが実際だと思う。講習を受けた方でも、やってみると言われたら出来るかどうかという不安もある。AEDのマップ化をしたり、AEDの使い方講習を各地区でやってもらうということを考えていく必要がある。
- 来年度の守ろうとしての具体的な施策について、各行政区に専用テント付きの簡易トイレを配置するような方向で進めていきたい。ただし、市にはそれだけの予算がないということが分かってきた。単年度では無理なので、複数年度に分けて、そういった備えをしていくということが必要になってくると思う。あと、住民の防災意識を高める活動については、地域協議会としては簡易トイレなど、実際に避難所で不足したらまずいというものを揃えていく活動をしていきたい。

○主な意見

事務局 簡易トイレの購入予算が防災対策課はないという話だったが、地域自治区予算としてはあるので、予算を計上することは可能となる。一旦この話は防災対策課と詰めさせていただきたい。もし予算が出せそうということであれば、各区長に要望を聞かないといけないので、先ほどの消火器と防犯カメラと同じようなタイミングで聞いた方が良いと思う。もしくは、まだそこまでには至らないのか、もし予算が確保できるなら、一緒に聞いてみた方がいいのかどちらか。

委員 八束穂、富沢が既にトイレを入れている。この件は命に関わることだと思うので、

ぜひ予算を付けていただいてこの案件を進めていただきたい。

会 長 それでは、簡易トイレについても先ほどの消火器や防犯カメラ同様に各行政区にアンケート取りたいがどうか。

委 員 各行政区にトイレ欲しいかを聞いたら、欲しいと言うに決まっている。予算が取れるかどうか不明確な状態で聞くのはいかがなものか。各区に思わせぶりな態度を取るよりかは、具体的な数量などの方向性を示してからアンケートを取った方が良いのではないか。

事務局 消火器と防犯カメラは、必要個数も含めて、要望を聞く必要がある。簡易トイレに関しては、もう既に入れている区もあり、予算的などところもあるので、例えば、次の区長会にお邪魔し依頼するという手もあるが、次の区長会は9月ということから間に合わない。トイレは各区で欲しい分だけ要望する感じなのか、それとも協議会として、予算の関係もあるので、まず各区に例えば2個ずつ整備していくという方針を決めて整備していくのも有りだと思う。また、先ほど言った予算に関しても、補助金で取るのか、貸与で取るのかという方針も決めないと、区として手を上げるかどうか判断がつかないということもある。一旦トイレに関しては、今日結論が出ないと思うので、次回の協議会で再度協議するという流れではどうか。

会 長 それでは、トイレは別として、消火器の上乗せは、全体の内25%はその地域が出さなければならない。防犯カメラは10%の地域負担が必要となる。トイレに関しては、次回の協議会で最終まで詰めて、どういう形にするかということを決めてから、全体で諮りたい。

委 員 屋外消火器は1つ13,000円する。防災対策課で補助金をもらおうと、7,000円で買える。さらに自治区予算で上乗せ補助金を3,000円もらえれば、残り4,000円は、区で出すのではなく、買う個人が出すべき、個人負担はやむを得ないと考えている。

委 員 災害が発生したときの一時避難所に公民館がなっていると思うが、割合として高齢の方が多く非難するので、公民館のバリアフリー化を進めたいという話があった。担当課で話を聞いたが、現行の補助制度に該当しなかった。例えば、年寄りが来るときに手すりをつけたり、バリアフリーでスロープにするなど、高額ではなく、公民館にそのような簡易な設備をつけることを、全17行政区でまだ出来ていない区を対象にして、守ろうのグループで予算化が出来れば嬉しいと思うがそれは可能か。

事務局 公民館のバリアフリー化に関しては、市民自治推進課で、集会施設整備補助金という制度があり、全体の内、3分の1の補助金が出る。それに対し、地域自治区予算でもう3分の1を上乗せ補助するという制度はある。ただ、条件もあり工事全体額が30万円を超える額でないと対象とならないというルールがある。無理やり30万円以上にしてほしいということではないが、30万円以上であれば補助金の対象になる。もし、条件外となってしまった場合のそれ以外の選択肢として、地域活動交付金を使うというパターンも考えられる。地域活動交付金は活動に対する応援資金だが、拠点整備に対する事業も対象となる。実際に他の自治区も公民館のバリアフリーや、椅子やエアコンを買ったりなどの整備に使っているという事例が幾つもあるので、東郷でもそれは可能である。しかし、東郷は昔からの暗黙のルー

ルがあり、拠点整備は認めていない経緯がある。初年度、まだ地域活動交付金の申請額が予算額の上限を超えていた頃に、地域活動交付金で公民館を整備するのは優先順位としては低いということで採択されなかったこともあった。つまり、ハード事業よりもソフト事業の方が優先されていた経緯があり、それ以来東郷の地域活動交付金では公民館の整備事業は申請が出てきていないというのが現状。ただ、市のルールに基づくと、公民館整備も可能であるので、そこも踏まえて、地域協議会で決めることが出来る。今後協議いただきたい。

会 長 ここ数年、地域活動交付金は申請上限額には到達していないので、一度チャレンジしてみてもどうか。そうすれば、来年度に予算がつくことになる。

委 員 お金のないこの市で余分に 30 万円に到達するように無駄にお金を使うのもどうかという考え方であって、もう少しそこを柔軟に考えて大事なものに使いましょうということを私は言いたいだけ。

【決定事項】

- ・消火器、防犯カメラについての要望可否を各行政区にアンケート調査することとなった。
- ・簡易トイレの整備については、次回地域協議会に持ち越し、議論することとなった。

柱 3 育てよう

・休耕地活用検討事業で、地域再生プロジェクトのメンバー募集の回覧チラシが各区に回っている。須長区が関心を持ってきていて、特に草刈りに関し、日当なり何かちょっとしたものが出れば、維持管理がしやすくなるのではないかという意見も出ている。どこでも困っている耕作放棄地、草刈、空き家という問題を維持してだけでも大変だが、維持を超えて少しでも収益化出来るような仕組みを作っていきたい。そのために東郷地域再生プロジェクトのメンバーが集まってくれるのを今期待しているところ。お近くの方でやってみたい方がいらっしゃればお声がけいただきたい。やはり、人材をマッチングさせる、事務局のような機能が必要になってくると思う。草刈りに困っている方がいて、例えばそこが私有地だったとして、私有地の地権者に、こちらから草刈隊を派遣するので、幾らか払っていただけませんかという斡旋するような事務局が出来れば、色々と活動が出来ると思う。ただ、その事務局にもお金がかかる。早急に令和 7 年度の予算を考えなければいけないが、まだ具体的にどんな予算が必要かが全然見えていなくて、今話していたのはこのプロジェクトメンバーに募集してくれた方が何か事業をやりたいとなったら、11 月の地域活動交付金の方にエントリーしてもらい、そこで活動費用をもらい、地域活動をしてもらう。例えば、竹の耕作放棄地が増えて困っているから、竹をチップにするための機械が欲しいという展開も考えられる。とにかくまずは 9 月から始まる東郷地域再生プロジェクトで集まったメンバーがどんなアイデアやどんな課題を持って集まってくるのかというところで、来年度の動き方が決まってくると思う。

○主な意見

委 員 プロジェクトチームが出来て、それ以降に予算立てして、9 月ぐらいには結果を出すのは間に合わないので、もしこのプロジェクトのメンバーで何かやりたいとなったら、地域活動交付金の方でエントリーしてもらおうかなと思っている。

会 長 例えば、来年度の地域自治区予算は今年度並みにつけていただき、来年度は会

議費程度で予算付けを行う。過去にも足を考える会や防災を考える会のように、会議を行うための運営費用を出すようなイメージで2~3年くらいは取っていた。延々とではなく、期間を決めて団体として独立してもらう間の会議費くらいはつけても良いのではないかと。

事務局 人件費については、東郷だけではなく、他の多くの地域から地域計画推進体制検討会が10地区立ち上がり、それぞれ提案をいただきまして、今年の4月にやっと10地区の提案が出揃ったところ。共通的な課題に対し市の方針をこれから皆様にお話しする機会を作らせていただくようになる。その中の1つとして、人件費を認めて欲しいということが、共通の課題、提案として出ており、そのことについて今検討を始めている。ただ、税金なので人件費となると微妙なところもあるが、多少なりとも有償ボランティア的なものとか、そういったものも人件費として認められるようなことを検討を始めている。どうなるかはまだ検討を始めたばかりなので、この場でお答えすることは出来ないが、何とか地域の皆様の希望に沿うような形で持っていきたいと思っている。

柱4 学ぼう

- ・長篠設楽原の戦い450周年事業について話しをした。鳳来中部地域協議会とのコラボでイベントをやっていききたいということで、どんなことが出来るかを考えていたけれども、いずれにしても8月に鳳来中部で地域協議会があるということだったので、それ以降に話を進めたい。なので、予算はまだ全然出てくるものはないので、話としてはまだまだこれからだと思っている。
- ・検定事業に関しては、来年度は上級の問題集を作成して、初級中級上級と検定試験が年に3回になるので、そのあたりの予算も資料館と練っていききたい。

○主な意見

- 会長 鳳来中部に対し、投げかけるような提案はあるのか。こちらから東郷ではこういうことを考えているということ、出来れば投げかけてあげると、向こうもやりやすいのかもかもしれない。
- 委員 幾つかアイデアは出たが、ウォークラリーやスタンプラリーならコラボにつながるのではという意見が出ている。また、自治振興事務所長に聞きたいが、舟着地域協議会の450周年に関する意向はどうか。
- 事務局 現段階では、今年の計画で松山峠のマップを酒井忠次が平井極楽寺を出て、川を渡り、舟着山の向こう側を回って鳶が巢山まで行ったというルートのマップを作りたいということとなっている。来年度はぜひ大勢の人に声をかけて、一緒に歩きたいというのを事業化したいとのこと。その辺も含め多少でも共同して出来るころがあればいいと思っているが、現段階では他地域自治区とのコラボを舟着地域協議会の方で考えているという話は出ていない。何か要望があれば、言っていれば伝えておく。

柱5 楽しもう

- ・ホームページの予算についてだが、年々減額をしていくという話を昨年度からの引き継ぎで

受けている。本年度は250万円程度の予算を取っているが、この予算の5分の1である50万円の減額を目指したい。基本的にはホームページのコンサル料を含めた維持管理費を減らしていくという方向で予算積算をしていただきたい。また、記事の150万円に関しては本年度は手をつけず、維持をやっていただろうかと思うが、先ほど話を聞いたところ年150記事を書くというのは相当大変だということだったので、記事本数を減らし、1記事あたりの単価を上げてあげたらいいのではないかと意見は出ているので、再度団体と事務局で検討していただきたい。

- ケッターパークに関しては、資料として予算積算書が出てきており、概ね良いと思う。ただ、1点目に賠償保険のことだが、現補償内容としては土地自体についているので、今後イベント等に出張PRをしていくのであれば、イベント保険等の予算積算も検討いただきたい。また、ゆくゆくは運営を無人化にするという話もあったので、必要ならばそこに関する予算も積算に入れて欲しい。最後に、前回中高生に対して、また地域に対しての認知度向上を図って欲しい、という提案をしたが、そこに対して良い回答が得られなかった。こちらからの提案として中学校や小学校とタイアップをして、例えばケッターパークの見学会であったり、ケッターパークで自転車講習会などを行っていただき、まずは目に触れてもらい、こんな場所があると知ってもらえるような認知度向上が進むようなイベントを学校と協力して、あるいは独自でやっていただければ良い。そのための予算積算をしていただきたい。現段階で昨年度よりも20万円減額での積算予算が出ており、楽しもうのグループとしては昨年度と同様レベルでつけて良いのではないかという話し合いの結果だったので、少し不安が残っている状態である。

【21:30 終了】